

かど の 葛野の鐘

図書館報 一第7号一



光華女子大学図書館
光華女子大学短期大学部
2000.4発行

(題字は元暦校本萬葉集より集字)



—CD-ROMが利用できる端末がふえました—

1階閲覧室のOPACコーナーの端末すべてで蔵書検索とCD-ROMの利用ができるようになりました。CD-ROMの種類もふえていますので、大いに利用して下さい。



図書館と“これから”

図書館長 岡本和子

大学図書館の使命は、教育・研究に必要な情報・知識を体系的に収集、保存し、必要とする人の利用に供することにある。いわゆる情報センターの役割である。それとともに、文化・教養センター的な役割をもつと考えられる。

前者については、従来、情報・知識の媒体は、いわゆる図書資料を中心としていたが、時代とともに多様化し、近年の電子技術の発展はそれに拍車をかけている。電子技術の進歩は情報の多様化のみならず、情報検索をはじめとする利用に関わるサービスにも影響し、図書館の有り様を大きく変えてしまった感がある。電子図書館によるサービスも現実のものになりつつある。また本学にない資料も、相互貸借制度その他によって手にいれることができる。だが、必要とする資料が手近に得られること、直接手に取って確かめられることは教育・研究上きわめて大切である。図書館システム (KLIS) の環境が整えられた今、図書資料のさらなる充実は以前にまして重要であろう。

後者については、本学の学生、教職員にとってのみならず、地域に開かれた大学図書館として葛野の地に根づく方向が探れないものだろうか。

さまざまな制約条件が重なるなか、図書館の充実をどのような方向に求めるのか、どのようにすれば具体化できるのか。小さな大学図書館の大きな役割を改めて考えてみるこの項である。

(文学部 人間関係学科・発達心理学)

私と図書館

図書委員となって



生活学科 池内常郎

任期満了退職の間近に、予期もしなかった投稿を依頼された。それも「私と図書館」。私の専門分野では、学術雑誌を索めることはあっても、成書となって図書館の書庫におさまったものは、全くではないがほとんどその要がなかった。

しかし本短期大学で34年を過ごした中で図書館とは決して無縁ではなかったのである。

その昔、初めて現行の委員会制度ができて、私が最初にお引受したのは図書委員であった。お引受したのではなく積極的に買って出たのである。現在のように一つ間違えれば学園の将来を危うくするような難しい委員会はなかったけれども、当時、新参であった私にとっては「これだ」と思ったからである。それから10数年を経て12年間の任命制による最後の学科長を務め、その直後に公選の初代図書館長を1期務めた。そうして今また私は図書委員である。「釣りはフナ釣りに始まりフナ釣りに終わる」と聞いたことがある。そういえば学長秘書で始まり学長秘書で終わった人がいた。関係のない妙なことを思い出したものである。図書館長に選ばれたのは学科長から降板してさぞ淋しかろうと、短期大学教授会の諸兄弟の同情票であったろうか、全くの素人の図書館長で、館員に随分ご迷惑をお掛けしたことを今でも申し訳なく思っている。と共に当時の館員の暖かいご支援に今なお感謝している。それにつけても人を選ぶことの難しさ、それにもまして人に選ばれることの難しさをしみじみと感ずる昨今ではある。

(食生活専攻・食生活論)

※池内先生は平成12年3月末に退職されました。

図書館に暮らす



文学部 山田明子

94年度に在外研究のため、英国のケンブリッジに学んだ。滞在中お世話になった大学図書館に増して緑の深かった図書館は、一年間借りたアパート(英国式に言うところのフラット)だった。

いわゆる家具つきのフラットだが、書棚にぎしりの本までついているとはびっくりだった。博物学・天文学・神話・歴史・社会学・美術そして文学と多岐に渡る本の、ほとんどが古書、そのまた多くが初版本という、途方もなく貴重な蔵書。おかげで、「台所と寝室つきの図書館に暮らす」という贅沢を経験できた。

大きな天窓の下のソファにうずくまって読み耽った本の中で特に印象深いのは、ディケンズと同時代のウィルキー・コリンズによる『白衣の女』(The Woman in White)。多彩な登場人物が順ぐりに語り手をつとめるドラマチックな物語が、息もつかせぬ迫力で展開されてゆく。謎が謎を呼び、まさに「巻おくあたわず」。長編推理小説の古典的傑作を初版本で楽しめたのは、まことに幸運だった。

一番大きい書架のあった巨大な寝室は、歩くと床がさしみ、天井に亀裂が走っていた。家主さんはアメリカ在住で長年留守のまま。

天窓から月光の射しこむあのすてきな図書館フラット。今どうなっているだろう。

*『白衣の女』の和訳が、最近文庫本に入りました。ミステリー好きの方はぜひどうぞ。

(英語英米文学科・イギリス文学)

『白衣の女』岩波文庫(赤)上・中・下 3階閲覧室

私の薦めるこの一冊

ワイルド・スワン
「鴻」

ユン・チアン著 土屋京子訳

生活環境学科 上野裕子



平成5年に、1ヵ月間北京の「中央工芸美術学院」という大学に招聘された事がある。その時、北京市西部の外国人専用のホテルで過ごしたのであるが、ようやく芽吹き始めた柳並木と自転車と人の波が果てしなく続く、この悠久の大地にも少し慣れてきたある日曜日の昼下がり、ホテルの一室で、ベッドに横たわりながら、テレビのチャンネルを回してみた。そこにNHKの教育テレビが映し出され、「推薦図書」の番組が放映されていた。その中で紹介された一冊に「ワイルド・スワン 鴻」という本があった。これは、帰国後世界的に大反響を呼んでいるのを改めて知る事となったのであるが、講談社から出版された本で、著者は中国生まれ・イギリス在住のユン・チアン（土屋京子訳）という人である。抗日戦争、国共内戦、そして文化大革命へとつながっていく、小説の世界ではなく現実に、中国の人達が、そして著者の母・祖母・著者自身が異常な時代と社会に翻弄されながら生きた苦難の歴史の物語であり、人間は極限状況のなかで何をするか、何ができるかを書いた本である。更に「ワイルド・スワン 鴻」は、ひとつひとつの事実を歴史全体のなかに位置づけ、何故これほどまでに残酷で過酷な時代を生きなければならなかったのかを、鮮明にわかる言葉で語ってくれているのである。これは広大な大陸を舞台にした物語であるが、そこに「紫禁城」が登場してくる。血生臭い匂いさえ感じながら丁度その場に立った時でもあり、これほどの衝撃的な印象をもって呼んだ本が他にあったらどうかと、今改めて思い返している。

(生活デザイン専攻・衣生活論)

「ワイルド・スワン上・下」926/1/1,2 3階閲覧室

「アップルパイの午後」

尾崎翠著

文学部 細辻恵子



大学生の頃、あるエッセイストの一文に紹介されていた作家とその作品が目にとまった。尾崎翠の「アップルパイの午後」。ほとんど知られていない女流作家であったが、昭和の初期の作品に「アップルパイ」の響きがあまりにも懸け離れていて、そのことに惹かれてさっそく読んでみたら、期待を大幅に上回り、戦前の日本にこんな斬新な感覚をもつ人がいたのかと驚き入ってしまった。

代表作は「第七官界彷徨」。ここに登場する主人公の女の子は、「私はひとつ、人間の第七官にひびくような詩をかいてやりませう」と考えているのだが、第六感を越えて第七官の世界に誘われるにふさわしい乾いたユーモアの味わいが、他のいづれの作家とも違う不思議な印象を強く刻印する。「小野町子」という「たいへんな佳人を連想させる」名を与えられて「いつもけむったい思ひ」をさせられている主人公と、心を病む人々の病院の医師である小野一助、床の間で二十日大根の栽培実験（卒論のためである）に余念のない小野二助、音楽受験生の佐田三五郎などの登場人物たちが交わす会話は、まじめなのかふざけているのか、何ともいえない微妙な境界線上を綱渡りして続き、独特の雰囲気醸し出している。たとえば二助は蘇の恋愛の研究も手がけているのだが、「植物の恋愛で徹夜した朝の音楽といふものは、なかなかいいものだね」といった調子である。

最近、全集が筑摩書房から出版されて脚光を浴びたとのことだが、ようやく時代が尾崎翠に追いついたのかもしれない。

(人間関係学科・社会学)

「アップルパイの午後」定本尾崎翠全集上巻 918/OMI/1 A書庫

『図書館を利用するみなさんへ』



生活学科 平成5年度卒業

杉本 雅代

去年の三月までの六年間、図書館で働いて図書館を利用する学生のみなさんと接して一番感じた事は、もっと積極的に図書館を利用してほしいと言う事でした。みなさんが図書館を利用する時というのは主に試験前や卒論を書く時だと思えます。その時、大抵の人は自分のわかる範囲だけで調べたり、書架に並んでいる本だけを見て、ないと諦めて帰ってしまいます。そんな光景を見る度に残念な気持ちになりました。図書館には、みなさんの勉強に役立つ為の資料を数多く集めてあります。じゃまくさいからとか難しそうだからという理由だけで簡単に探す事を諦めてしまうのではなく、一言カウンターへ相談をしに来るだけで館員の方は、わかりやすく資料の探し方のコツを教えてくれるのです。そのコツを知るだけで参考にできる資料の数がぐんと増えるのです。館員の方はそんなみなさんの積極的な利用を期待し、常に環境を整えているのです。図書館の資料をもっと有効に又、最大限に利用してほしいものです。

Information

〈新入生の皆さんへ〉

情報処理関係の最初の授業時に「KOKA CARD」を配布します。情報を履修されない方には、後日図書館1階カウンターにてお渡しします。図書の貸出にはこのCARDが必要となりますので、必ず受け取るようにして下さい。

〈在学生の皆さんへ〉

「KOKA CARD」をまだ受けとってない方は至急、図書館1階カウンターへ受け取りに来て下さい。卒業まで有効ですので大切に扱って下さい。

数字で見る図書館の動き

開館状況

年度	開館日	開館日数	入館者数	貸出冊数	貸出人数
9	9.4.15 ~10.3.19	234	77,318	13,508	7,630
10	10.4.10 ~11.3.19	236	74,488	14,284	8,019
11	11.4.9 ~12.3.18	243	71,403	13,878	7,715

蔵書冊数(平成12年3月)

	和書	洋書	計
図書	約129,100	約 22,100	約151,200

年間受入図書冊数(平成11年度)

	和書	洋書	消耗図書	計
購入	3,301	759	790	4,850
その他	815	169		984
計	4,116	928	790	5,834

相互利用件数

年度	複写依頼	複写受付	閲覧依頼	閲覧受付
9	110	18	77	7
10	94	28	45	8
11	163	33	72	5

レファレンス件数(カウンター受付)

年度	学内調査のみ	学外への依頼	学外からの依頼
9	90	161	14
10	56	175	26
11	267	136	23

Schedule

4月10日(月) 図書館ガイダンス

4月11日(火) 9時開館

4月13日(木) 返却期限日

- *ガイドブック・地図の一部を新しくしました。また、文庫・新書・ビデオも新しく増えましたので、利用して下さい。
- *図書館への質問・要望はカウンターまで申し出て下さい。ホームページ内の投書欄でも受け付けていますので、こちらも利用して下さい。

編集後記

ご寄稿くださいました皆さまには心より御礼申し上げます。今後ともよろしくお願いいたします。

蔵書冊数の訂正

(誤)

	和書	洋書	計
図書	約 129,100	約 22,100	約 151,200

(正)

	和書	洋書	計
図書	約 133,000	約 23,000	約 156,000